

令和 8 年 3 月 30 日

令和 7 年度 社会福祉法人 長野市社会事業協会

## 児童発達支援センターにじいろキッズらいふの中核的機能の取組の概要

「にじいろキッズらいふ」は、障がいのあるお子さんや、発達に心配のあるお子さんとそのご家族を支援する施設です。医療的なケアが必要なお子さんも含め、様々なニーズに対応するため、以下の事業を行っています。

- **児童発達支援・放課後等デイサービス:** お子さんの成長をサポートする発達支援を提供します。
- **保育所等訪問支援:** 保育所等など、お子さんが通う場所へ訪問し、支援を行います。
- **障害児相談支援:** ご家族からの相談に応じ、必要な情報提供やサービス利用の調整を行います。
- **長野市南部発達相談支援センター事業・長野県障がい児等療育支援事業:** 相談の入り口の機能強化に努めています。療育コーディネーター、医療的ケア児等コーディネーターを配置し、幅広い地域の相談に対応できるよう努めています。また、関係機関との連携に努めています。

言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、看護師、保育士、管理栄養士等の専門職、加えて医療的ケア児支援アドバイザーの顧問医師がおり、それぞれの専門性と実践力を活かし連携しながら、PDCAサイクルでチーム支援を行っています。多様な困り感のあるこどもやそのご家族の相談やサポートも含め、関係機関との連携や適切な助言、コンサルテーションが可能です。

## 中核機能①:にじいろキッズらいふにおける幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

### 【発達支援についての取組】

- **多職種チーム:** 児童発達支援管理責任者、主任、保育士に加え、作業療法士、必要に応じて心理士、言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士などが参加。専門的なアセスメントと発達支援を実施。
- **多角的な評価:** 専門職がモニタリング(観察と評価)を実施。クラス担任とのカンファレンスで情報を共有し、こどもの状態を多面的かつ総合的に把握。
- **人材育成:** 担任はカンファレンスで専門職の視点を学び、専門性が向上。OJTを通じた人材育成。
- **支援内容:** 専門職による個別セッションと集団観察を定期的実施。小集団での支援を重視。
- **支援形態:** 評価のための個別セッションは行うが、小集団での支援が基本。

### 【オーダーメイドの個別支援計画作成】

- **作成プロセス:** 多職種によるアセスメントに基づき計画案を作成。関係者会議(児童発達支援管理責任者、担任、専門職、管理栄養士、管理者、臨時職員等)で支援内容を細やかに話し合い、支援の方向性の統一を図る。年 2 回実施。
- **専門性:** 標準発達、構造化、感覚統合、応用行動分析等の専門性を活用。正確なアセスメントに基づく支援。

### 【家族支援についての取組】

- **親子通園と参観:** 一定期間の親子通園を通じ、保護者はお子様との関わり方、特性理解についてアドバイスを受けたり、悩みや不安の相談ができる。開所日はいつでも参観可能。それ以外に、月 1 回はセンターに足を運び直接職員等と顔を合わせてゆっくり話をする時間を設けている。祖父母やご親戚やきょうだい児の相談も可能。
- **相談体制:** 保護者はいつでも相談可能。育ちの見通しや家庭での子育てに関するアドバイスを提供し、保護者の不安軽減に貢献。専門家による個別面談を実施(希望する保護者対象)。
- **時間外利用:** 就労支援だけでなく、レスパイト(休息)を含めた時間外利用に対応し、保護者のニーズに柔軟に応える。

### 【保護者同士の交流の場の提供】

- **親の会支援:** 専用の部屋、Wi-Fi 環境やプリンターを完備。親の会同士の交流を促進。
- **保護者向け研修:**ペアレントサポート講習会を定期的開催し、保護者の知識向上を支援。親の会が企画運営する研修、ゆったりずむでは年間を通し専門家による研修など多様な研修を開催。
- **ピアサポート:** 保護者の方々に業務委託として「療育ハンズ(トークデー)」を年5回開催。テーマは多岐にわたる。また、卒園生の保護者が主導する「Ryouiku ハンズ」が発足し、参加者みんなで視覚支援の作成や手作りおもちゃ作りや勉強会等実施し、参加者も開催ごとに増えている。

## 中核機能②: にじいろキッズらいふにおける地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能

### 【地域事業所への相談支援と全体研修】

- **市内全支援者対象研修の実施(令和 7 年度新規・拡充):** 年に 2 回、長野市内の全事業所の支援者を対象とした合同研修会を実施しました(講師: 酒井氏・光真坊氏)。地域全体の支援者が共通の認識と専門性を持てるよう、地域全体の支援力向上を目的としている。
- **長野県障がい児等療育支援事業の受託事業:** 療育コーディネーターを 3 名配置(言語聴覚士、作業療法士、医療的ケア児等コーディネーターの看護師)。長野地域の南部地域を担当。コーディネーターが保育所等や学校、児童センターやプラザからの相談に対応し、研修も実施。地域事業所からの相談にも対応し、研修を通じて職員の不安軽減と支援力向上をサポート。
- **長野市南部発達相談支援センター委託事業:** 長野市在住の障害児や発達に不安のあるお子様

とその家族、関係機関からの相談に対応。

- **事業所へのスーパーバイズ:** 児童発達支援事業所に対し、モニタリング、カンファレンス、研修などを定期的実施し、事業所の質の向上を支援。
- **医療的ケア児支援:** 医療的ケア児支援アドバイザーの医師と医療的ケア児等コーディネーター等が児童館職員向けに研修を実施し、医療的ケア児の受入れを支援。

#### 【地域連携と人材育成】

- **福岡塾(長野市協力):** 公立保育園を対象に、専門家によるモニタリングと研修を年間通じて実施。行政、福祉、幼保園等の職員も参加し、専門的な視点とアセスメント能力を育成。インクルーシブな社会を目指し、地域全体のスキルアップに貢献。
- **巡回保育:** 独自の巡回保育を実施し、地域の保育園に対し、特性理解、合理的配慮、クラスづくりに関する支援を提供。

### 中核機能③: にじいろキッズらいふにおける地域のインクルージョン推進の中核機能

#### 【「長野こども未来フォーラム」の開催(令和7年度新規)】

インクルーシブな地域社会の実現と関係機関の連携強化を目的として、「長野こども未来フォーラム」を主催・実施しました。教育・保育・福祉の関係者や広く市民が一同に集い、多様なこどもたちの健やかな育ちと未来について共に考える重要な場を創出した。

#### 【地域における相談支援と訪問支援】

- **相談支援体制の強化:** 療育コーディネーターを配置し、年間約1500件の相談に対応。面談、訪問、会議など、必要に応じた支援を実施。
- **保育所等訪問支援の充実:** 専門的な研修を受けた職員が保育所等へ訪問し、合理的配慮の視点を含めた支援を提供。学校や児童館からの相談にも対応し、合理的配慮の普及に貢献。

#### 【専門性の普及と人材育成】

- **研修事業の実施:** 長野市内外の自治体や地域、幼稚園・保育園・こども園へ、多様なこどもたちの見方・捉え方等、合理的配慮に必要な専門性等の研修を実施。地域からの研修依頼に応じ、専門スタッフが講師として派遣。インクルーシブ教育・保育の推進を支援。
- **保育士養成への貢献:** 保育士養成大学で障害児保育の授業を担当。将来の保育士に対し、インクルーシブの概念、専門性や多様なこどもの理解、保護者支援などを教育。これからのインクルーシブ社会とこどもたちの未来を担う保育士の人材育成に力をいれている。

#### 【地域連携】

- 世界自閉症啓発デー日本実行委員会の委員を務め、障害の理解周知の活動に参加している。

- 内閣府子ども家庭庁の第2期こどもの居場所部会委員
- 障害児支援における国の標準カリキュラムに基づく研修の効果的な実施等に係る調査研究【WT】
- 放課後等デイサービス等における利用ニーズ及び支援提供の実態把握に関する調査研究委員
- **地域機関との連携強化:** 長野市ふくしネット(自立支援協議会)のこども部会、くらし部会、じごと部会への参画。
- 一般社団法人 全国児童発達支援協議会の理事を務め、国への提言、審議会、全国規模研修の開催等を行っている。

## 中核機能④:にじいろキッズらいふにおける地域の発達支援に関する入口としての相談機能

### 【相談機能の充実】

- **わくわく相談会:** 年4回(日曜日)実施し、こどもの特性や課題をアセスメント。保護者との個別相談で、ニーズや想いを把握し、適切な支援を提案。地域園との連携や、相談支援員・コーディネーターへの紹介も実施。
- **多職種による相談対応:** 中核的機能強化職員、療育コーディネーター、長野市発達相談支援センター専門員、相談支援専門員など、専門スタッフが連携して様々な相談に対応。

### 【地域との連携と課題解決】

- **地域園との連携:** 相談会での情報を地域園と共有し、連携して支援。必要に応じて、園への訪問支援も実施。
- **課題と今後の展望:** 相談会のニーズが高い一方で、市内事業所の定員超過により、支援に繋がらないケースが発生。県や市町村との情報共有や検討会を通じて、支援体制の整備を目指す。

### 【現状の課題と今後の展望】

#### 1. 市町村主導の連携体制の強化と当センターの牽引

全国的には児童発達支援センターが中核となり、行政や教育機関が連携する動きが加速しています。長野市においては、関係機関の連携会議(一般こども施策への福祉の参画など)に課題がありましたが、令和7年度は当センターが主導し「長野こども未来フォーラム」を実施するなど、連携を深めるための具体的な一歩を踏み出しました。今後もこの流れを絶やさず、資源を有効活用するためのシステム構築を牽引します。

#### 2. 健診から就学・就労までの切れ目のない支援体制の構築

早期発見・早期支援の重要性が謳われる中、依然として入園後(年中児以降)に相談が集中する傾向があります。健診から就学・就労まで切れ目のない体制を早急に構築するため、当センターの専

門性をさらに地域へ還元・協力していく必要があります。

### 3. 関係機関における共通認識の醸成

発達支援に多様な機関が関与する中、現場の混乱を防ぐためには共通認識が不可欠です。今年度実施した「市内全支援者対象の研修会」等を通じ、共通理解に基づいた質の高い支援システムづくりをさらに進めていきます。

### 4. インクルージョン推進における中核機能の周知と実践

児童発達支援センターはインクルージョン推進の中核を担いますが、教育・保育現場への「合理的配慮」の浸透は道半ばです。自治体のバックアップのもと、地域全体への周知活動と連携強化を図るとともに、専門性の高い人材の確保・育成に引き続き尽力します。

～おわりに～

関係機関が連携し、一般こども施策との検討会議や要支援児のフォローの仕組みづくり、インクルージョン推進、合理的配慮の普及など、さらなる行動を起こす必要があります。私たちは、こどもたちが安心して成長できるより良い地域社会の実現に向けて、力を合わせて取り組んでまいります。